

運営方針及び事業計画

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月31日

一般財団法人 伊勢神宮崇敬会

一般財団法人伊勢神宮崇敬会
令和6年度運営方針及び事業計画

運 営 方 針

昨年（令和5年）12月2日、本会は70周年を迎えた。この佳節を機に主目的である「神宮の御神徳を宣揚し、社会の健全な発展に寄与すること」を今一度見つめ直し、日本に根ざす伝統文化を次世代へ、またその次の世代へと受け継いでいけるよう神宮奉賛活動に努める。

特に本年は昭和31年から催行している「伊勢神宮新穀感謝祭」が、本年で70回目を迎える。飽食の時代という言葉に象徴される物の豊かさの中で、食にまつわる社会的ニーズの変化により食物に対する感謝の気持ちが薄れ、また深刻化する食糧自給率の低下や食品ロス問題などが憂慮される今日にあって、当事業は益々大きな意義を持つと言える。今後も新穀感謝祭はもとより、「神宮125社まいり」など会員に向けた恒例事業を着実に行之、崇敬心の更なる涵養を図る。

「参宮の宿」である神宮会館では、本年も宿泊者を対象に毎日行っている「早朝参拝案内」を中心に、朝の清々しい内宮を深く体感いただけるよう努める。また、ウェブサイトやSNSを活用し、神宮会館のみならず伊勢の魅力について発信し多くの方に伝える。

事 業 計 画

1. 文化及び芸術の振興

① 神宮植樹祭の参列

森林のもつ機能の大切さを学び、自然に対する畏敬の念を体感するため神宮宮域林で行われる桧の苗木を植樹するお祭りに、特に許されて参列する。

（4月24・25日 定員15名）

② 神宮125社まいり

本年度で24期目に入る。神宮で正宮・別宮・摂社・末社・所管社としてお祭りされる全てのお社に参拝し、様々な形で営まれる神宮の神祭りの姿とその心を学ぶ。年5回のコースに分けて行之、どのコースからでも参加ができる。非会員は参加不可。

・各巡拝日程（4月16・17日、5月16・17日、9月24・25日、10月18・19日、令和7年2月12・13日 定員各25名）

③ 倭姫命ご巡幸まいり

倭姫命の御事績や教えについて学び、倭姫命がお定めになったと伝えられるお社に参拝し、旧蹟などを巡り、約2,000年を遡る神宮の原点に思いを致し崇敬心を深める。参加は神宮125社まいり全コース修了の会員に限られ、非会員は参加不可。

・春コース日程（5月27・28日 定員25名）

・秋コース日程（10月25・26日 定員25名）

④ 神宮ばら園の運営

昭和62年10月に開園した神宮ばら園を運営して春と秋に無料開園し、訪れる方々に安らぎの場を提供する。また皇室敬慕の心を育むため皇族のお名前を冠したプリンセス・ローズを育成し公開する。開園期間外にも関心を寄せていただけるよう、コンテンツ配信用プラットフォーム「note」に於いて開花状況や育成記録等の情報を発信する。

⑤ 小笠原流礼法教室と外宮朔日まいり

小笠原流弓馬術礼法三十一世宗家小笠原清忠氏を講師に招き、歴史の中で洗練された礼法を学び、翌日は日毎朝夕大御饌祭が毎日御奉仕されている外宮に早朝の朔日参りをし

て神楽を奉納し、併せて神宮の附属施設はじめ近隣の文化施設を見学することで、日本文化への理解を深め、神宮崇敬の心に繋げる。

(5月31日・6月1日、8月31日・9月1日、2月28日・3月1日の年3回 定員各15名)

⑥ **神宮祭典の奉拝**

2,000年に亘り営まれているお祭りを間近に奉拝し、そこに受け継がれる神祭りの心を体感する。夜間に行われる6月・12月の月次祭(内宮)と神嘗祭(外宮)の由貴夕大御饗をはじめ、年間恒例のお祭りを奉拝する。

⑦ **第47回神恩感謝祭**

神宮の六月月次祭に合わせ、神宮の広大なご神恩に感謝を捧げ、さらなる皇室の弥栄、国家の繁栄、会員各位の安寧隆昌を祈るお神楽を奉納する。併せて神宮に関する講話、別宮の由貴夕大御饗の奉拝なども行う。奉拝する別宮を変えた同内容で2回開催して多くの参加を募る。

(6月18・19日、6月24・25日 定員各80名)

⑧ **夏至まいりと茅の輪作り体験**

夏至の日に神宮に参拝し、太陽の恵みのもとに営まれる大いなる自然の力に対する感謝と畏敬の念を深める。また、古来この季節には夏越の祓いを行い無病息災を願う風習があり、それに因んだ茅の輪作りを体験し、身体健全を祈る。

(6月20・21日 定員25名)

⑨ **第6回神宮奉納弓道大会**

全国の愛弓家より「一度は伊勢の神宮弓道場で弓を引いてみたい」という切望に応え、弓道技能の向上と弓友相互の親睦を図り、弓道の発展に寄与することを目的に大会を開催する。(7月8日)

⑩ **第53回初穂曳への参加**

神嘗祭に合わせて全国からの初穂米を募り、伝統文化行事「お木曳」の継承を目的に行われる初穂曳の行事に参加して初穂米を神宮に奉納し、その夜に行われる外宮の由貴夕大御饗を奉拝する。〔神社本庁協力〕(10月15日)

⑪ **第70回伊勢神宮新穀感謝祭**

新穀への感謝を捧げる国民総参宮との趣旨を掲げ、全国から多くの参列者を迎えて特別参拝とお神楽奉納を行う。併せて農業をはじめとした産業の振興に貢献された功労者の顕彰を行い、さらなる農事発展を祈念する。(11月上旬～12月上旬)

⑫ **第63回伊勢神宮奉納書道展**

毎日新聞社との共催で、1,400年以上に亘り育まれ洗練されてきた書道の振興を図り、書の芸術性を昂揚する。全国各地から作品を公募し、内宮饗膳所において展示のうえ優秀作品を表彰する。(展示期間11月25日～12月4日、表彰式12月2日)

⑬ **令和6年の御礼まいり**

神宮の十二月月次祭に合わせ、神宮の広大なご神恩のもとにその1年をお守りいただいたことへの感謝を捧げ、さらなる皇室の弥栄、国家の繁栄、会員各位の安寧隆昌を祈るお神楽を奉納する。併せて神宮に関する講話、別宮の由貴夕大御饗の奉拝なども行う。奉拝する別宮を変えた同内容で2回開催して多くの参加を募る。

(12月18・19日、12月24・25日 定員各50名)

⑭ **第68回神宮奉納大相撲**

日本相撲協会協賛のもと、国技である大相撲の取組を通じて守り伝えられた「心・技・体」の神髄を披露する。横綱の手数入り、また神宮相撲場ではトーナメント戦等を行う。(3月30日)

2. 児童及び青少年の健全育成

① 第15回伊勢と神宮 伝統文化体験教室

全国の小学生とその保護者を対象に、伊勢を中心に育まれた伝統文化を学び、歴史や文化を尊ぶ健全な心の育成を目的とした体験型教室を開催する。神宮の神事でも行われる火鑪具による火起こしや、伝統文化に因んだ工作の体験を行う。同内容で2回開催する。
(8月9日、8月23日 定員各30名)

② 第62回伊勢神宮奉納全日本学生弓道大会

全日本学生弓道連盟・神宮司庁・三重県弓道連盟との共催で、第72回全日本学生弓道王座決定戦・第70回東西学生弓道選抜対抗試合・第48回全日本学生弓道女子王座決定戦・第48回女子東西学生弓道選抜対抗試合を開催する。(11月下旬)

③ 第19回神宮奉納お伊勢まいり作文コンクール

全国の小学生を対象に、神宮参拝に際して伊勢の風土や文化に触れた感想や思い出などの作文を募集し、国語の表現力向上や情操教育に寄与する。なお、優秀な作品を選定して表彰を行う。(応募期間7月1日から10月31日 表彰式3月15日)

3. 会員組織の拡充と展開

① 入会促進

各種活動を通じて神宮に関する文化を広く紹介することにより、神宮を更に深く理解し崇敬を寄せる国民を拡大し、これを会員として受け入れる。

また、会員からの紹介による入会も増加させるべく、会員の満足度を高めるよう、会員参加の活動内容を常に検討し質の高いものとする。

会員の待遇についても、神宮への崇敬心に応え、充実した参宮を提供できるようなものとし、入会者の永続的な入会を得られるようにする。

② 第29回会員研修会

内宮古殿地清掃や夜間参拝、神宮に関する講話などを通して、神宮への崇敬心や知識理解を幅広く深めるための研修を行う。同内容で春と秋の2回開催する。

(春5月8・9日、秋10月8・9日 定員各50名)

4. 宿泊、研修施設等の運営

① 神宮会館の運営

お伊勢まいりの宿として、早朝参拝案内をはじめ参宮促進及び御神徳宣揚に努め、伊勢の神宮が伝えてきた文化及び芸術の魅力をより多くの方に知っていただけるよう努める。

(ア) 第24回八朔まいりとお水汲み

伊勢では八朔の日(8月1日)に五十鈴川の水を汲んで瀧祭神に参拝し、その水を神棚に供えて一年の家内安全・無病息災を祈る風習があり、それに倣ったお参りをしてご加護を祈りお水を持ち帰る。

(7月31日・8月1日 定員70名)

(イ) 第25回冬至まいりと注連縄作り体験

冬至の日に神宮に参拝し、宇治橋大鳥居正面から昇る朝日を拝んで自然に対する感謝と畏敬の念を深める。また、伊勢では一年中玄閼に注連縄を飾り無病息災を願う風習があり、その注連縄作りを体験し新年に向けて家内安全を祈る。

(12月20・21日 定員80名)

(ウ) 還暦・厄年まいり

人生儀礼の中で特に節目の年となる還暦や厄年を無事迎えたことへのご神恩に感謝し、神宮参拝とお神楽の奉納を行う。還暦の方には健康招福の御守、厄年の方には厄祓いの

御守をいただく。

(2月6・7日 定員50名)

(エ) **第34回お伊勢さん正宮・別宮まいり**

その年の豊穰を祈る神宮の祈年祭に合わせて、内宮・外宮の両正宮と全別宮を1泊2日で巡拝し、別宮の祭典奉拝や神宮の文化施設見学も行う。希望者は巡拝するお宮の御朱印も受けられる。

(2月17・18日 定員30名)

5. 会報、図書その他印刷物の編纂と刊行

① **会報誌『みもすそ』**

皇室・神宮に関する記事、伊勢志摩の歴史・文化の話題や本会行事などの情報媒体として、各会員に配布する。創刊から4月で第110号の発行となる。(年4回発行)

② **叢書**

神道有識者に依頼し御神徳の宣揚、神社神道の昂揚を図るための叢書を刊行する。

叢書28『神道史から見た式年遷宮』 國學院大學教授 武田秀章 氏

6. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

① **昼食の利用促進**

神社関係者を中心に働きかけ、お神楽奉奏の団体には直会饗膳も提案する。

② **物品、記念品の販売**

会館利用者並びに崇敬会会員へ記念品・特産品の販売並びに木製品・参宮記念品の謹製・頒布を行う。また「伊勢の神宮 ISE-JINGU KOYOMI」(カレンダー)を神宮監修のもと発行する。

③ **研修施設及び神宮相撲場の利用促進**

講堂(大ホール・会議室)及び神宮相撲場の利用促進を図る。

④ **神宮参拝者駐車場の運営**

内宮前の渋滞緩和の一助として、神宮会館横に隣接する立体駐車場を運営する。

⑤ **コインロッカーの運営**

宇治橋前にコインロッカーを設置し、内宮参拝者の便宜を図る。

⑥ **太陽光発電事業の運営**

我が国のエネルギー政策であるCO₂排出削減や再生可能エネルギー導入拡大への協力を行い地球環境保護に貢献するとともに、神宮会館経営の一助とする。

⑦ **神社関係者大会等に出向**

各地で開催される神社関係者大会等に出向き、本会の広報を行う。

⑧ **スポーツ及び文化活動への助成**

行政を含めた協賛・後援依頼団体の行事及び事業の助成をする。

⑨ **参宮案内所における案内**

神宮の参宮案内所(宇治橋前)に職員を派遣し、神宮に関する案内を行う。

以 上